

# 親子聖書日課

NO.1967 2026.6/7-13

名前

[日]サウロ(パウロ)は、キリスト者を捕らえに行く途中、逆に主に捕らえられ、劇的な回心します。サウロのように捕らえられたら、誰でも一瞬の内に変われます。聖霊・とりなしの祈り・果敢な伝道が、頑なな心も打ち砕きます。諦めてはダメです。

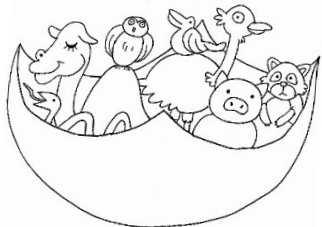
[月]どんな敵対者でも、悔い改めて、主を信じれば、主にある兄弟です。しかし、その人の過去を見ると、赦せないかもしれませんが、バルナバは、主を信じたサウロの味方になったので、彼は主の働き人になりました。今日もバルナバが必要です。

[火]人は生きたように死ぬものです。タビタは沢山の善行や施しをしたので、死んだ時も、多くの人は涙をもって彼女の死を悼みました。素晴らしい生き方でした。私達もタビタに倣って、惜しみなく与える人生を実践して、天に宝を積みましょう。

[水]幻(ビジョン)を見るためには、コルネリウスのように生きることです。彼は「信仰心あつく、一家そろって神を畏れ、民に多くの施しをし、絶えず神に祈っていた」ので、幻を見ることができました。信仰に忠実に生きる時、主は幻を与えて下さいます。

[木]神はえこひいきが大嫌いです。主を信じて従う人なら、誰でも祝して、用いて下さいます。私達は気の合う人とだけ交わり、又、奉仕を頼んだりしてはいないか、注意しましょう。教会は罪赦された者が信仰で交わり、主をほめたたえるのです。

[金]当時、ペトロが異邦人と交わっていると非難する人がいました。その時、ペトロが「事の次第を順序正しく説明し始めた」のです。これが功を奏して偏見が取り除かれました。人を主の下に導くためにも、福音を順序正しく説明することが大切です。



[土]「クリスチャン」という名の起源は、「キリスト」というギリシャ語「クリストス」に、ラテン語の語尾がついたもので、元々は仇名でした。いつも主の名を唱え、キリスト一辺倒に生きたので、「キリスト野郎」と陰口を叩かれたのです。私達はどうですか？

	聖書	問題	答え
日	使徒言行録 9:1-19	主を迫害したのは誰でしたか。	
月	9:19-31	誰がサウロを連れて使徒たちのところへ案内しましたか。	
火	9:32-43	ペトロが何と言うと、タビタは目を開き、起き上がりましたか。	
水	10:1-33	コルネリウスは一家そろって、どうしましたか。	
木	10:34-48	神は人をどうなさいませんか。	
金	11:1-18	ペトロは事の次第を、どのように説明し始めましたか。	
土	11:19-30	アンティオキアで弟子たちは初めて何と呼ばれるようになりましたか。	
感想と祈りの課題			